

分科会討議日程

第17 分科会 「幼年期・低学年の教育と保育問題」

共同研究者氏名(所属)	影浦 紀子(松山東雲女子大)
分科会役員氏名(学校名)	吉越栄子(波田小学校) 横川しのぶ(吉田小学校) 宮島 あい(浜井場小学校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名	
討議 I 13:30～ 15:30	討議の柱: 幼年期・低学年の育ちで、今大事にしたいこと			
	1	自己紹介(共同研究者の影浦先生、参加者に一言ずつお願いします)		
	2	課題提起(保育現場・学童現場の様子をお話いただく)		
	3	レポート「いっしょうけんめい一年生！」	波田小学校(松塩筑)	市ノ瀬 有香
	4	レポート『子ども時代をどう保障する?～「あそびタイム」の取り組み』	神川小学校(上小)	高木 美幸
	5			
	6			
	7			
15:15～ 15:30	まとめ 影浦先生によるまとめと助言			

参加者への 連絡事項	<p>討議の開始が、1時30分となっています。開始の前の時間に、発表予定のみなさんと、時間配分のことなど若干の打ち合わせをさせていただきたいと思います。</p> <p>発表予定の方は、いったん1時になりましたら入室してください。よろしくお願いします。</p> <p>終了予定時間を3時30分としています。参加者の人数や、討議の進み具合で、若干時間を延長していただくかもしれませんが、ご承知おください。</p>
---------------	--

課題提起 (2023)

2019年の国連・子どもの権利委員会は、日本の政府に対して「ストレスフルな学校環境（過度に競争的なシステムを含む）から子どもを解放するための措置を強化すること」を重ねて勧告しています。長野県の不登校は2021年度更に増加をし、全国の状況共々、過去最多を更新したと報じられました。

「子どもの権利」に長く携わってきた増山均さんは、今年の夏の民教の全体講演の中で、子どもの育つ社会全体が「競争的環境」になっていると指摘しました。昨年度のこの分科会では、保育園の先生からは「生活にゆとりがなく、寝て、食べて、遊んで、という当たり前の生活が難しくなっている。」学童の先生からは「子どもたちが時間に追われている。いやなことが起きないように、新しいことには挑戦しない。」など、ゆとりのなさが、子どもたちの成長の機会をうばっていることを危惧していることが話されました。

子どもたちの様々な問題にこたえていくためにも、保育配置基準の改善、30人学級の実現、学童保育の基準・施策の抜本的改善も求められることが確認されました。運動をこれからも強めていかなければ、子どもたちの苦しみを取り除いてあげられません。

今年度5月に新型コロナが5類感染症に移行となりましたが、社会も保育・教育現場も、何より子どもたちも、いまだに不安や圧迫を感じながら日々を送っています。

1. 保育の現場では

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が強調され「計画をもとに自己評価を繰り返させれば質が向上できる」と言われるも、全国の保育園職員も疲れています。

しかし保育の職員配置や施設改善は進まず、国際的にも低い水準のまま放置され、職員の負担は増大。そんな中で推進されている「処遇改善制度」は、賃金増が中途半端で、しかも制約が多く、人手不足の解消や負担軽減につながっていません。大人数を1人でまとめるのが当然とするような風潮が残っている中で、職員もほんとうに苦しくなっています。

残念ながら今の政府が出し続ける保育政策は、保護者や関係者の不安を解消してくれるようなものではまったくありません。前宣伝ばかり立派だけれど改善が微々たるもので、しかも先送りの政策（例、こども予算の倍増は約10年後。75年ぶりと変に宣伝した配置基準改善は、実際は基準の改善でなく、該当園が限定される補助金的なもの。しかも実施時期が不明）。または、保育や幼児教育を国の意図する方向にゆがめるような「充実案」（例、職場内や業界内の格差・差別を助長しかねない「処遇改善制度」。また、条件低下で受け皿増大の策を続けることで、公的水準の低下を招いている）。

さらに最近の政府は、国の政策に対し異論や対案があっても、それには耳を貸さず強引に国の意図する方向へと推し進める態度を続け、新しそうな提案ばかりをして世間の関心をそらしています。これでは少子化対策の大事なときに、国民的な議論を阻んでいるようなも

のです。「こども誰でも通園制度（仮称）」などは一時預かり的な保育を増やし、現場の負担を増やしてでも、要望に応じているポーズをとるかのような制度です。

全国的な運動とともに、各地から具体的な実情や切実な声をあげていくことがますます必要になっています。

2. 小学校低学年では

コロナ禍が3年余り続きました。5類に移行したとはいえ、感染力に変わりはなく、またこの夏は、前年度まで流行を見なかった別の感染症が広がるなど、まだ予断を許さねない状況ですが、日常は戻ってきています。ただ、コロナ禍の中、「取り戻さなくてはいけないのは、学習の遅れ。」ばかりが取りざたされ、子どもたちの自由な遊びや友だちとの関りや様々な体験を通して育ってくる力はどうか、これは、まだはっきりとはわからないでいます。

年々、学習参加、集団参加がうまくいかずに学校生活になじめずにいる子どもたちは、増加傾向です。ベテランの教師が、子どもの指導に戸惑い困惑するという話もめずらしくありません。

低学年は、学校や他者へのイメージを作る大切な時期です。一人一人のまだ育ち切っていない部分も受け止めるおおらかさも必要ですし、何より、学校は楽しい所であり自分が大事にされる場である、という前向きな学校観や、大人は信頼できる、友だちがいて楽しいという基本的信頼感や他者認識の土台を大切に積み上げたいものです。それには、どんなことを大切にしたらよいのでしょうか。

コロナ禍に乗じて様々な条件整備や検討もないままに、一人一台端末の導入が進み、ICTの活用研究に重点が置かれている様子も見られます。健康面における影響やICT機器を介したトラブルなど新たな問題も出てきています。本来は対象に直接に触れたり、体験したりすることが特に大切な低学年の時期に、どんな学習こそが求められるのかは、引き続き検討していくことが必要です。

3. 学童保育では

新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、日常が戻ったように見えるこの頃ですが、所得格差が著しい現状では、コロナ治療の有料化による子どもや高齢者の受診差し控えが心配されています。また学童保育での子どもたちの様子としては、友だちとの折り合いの難しさ・関わりへの不安感などが3年前よりも増しているように見えます。ふれあい経験の不足が影響しているのでは？と気になるところです。「自己中心性からの脱却という発達の姿を支える」・・・これ为目标の1つとして実践の工夫をしてきた学童保育ですが、あらためて活動内容を試行錯誤しながら取り組んでいます。

また、コロナ禍においては、学童保育現場の様々な困難・問題点がマスコミにも取り上げられ、国会でも質問されるなど、広く可視化されました。施設の劣悪さ・人員配置の問題など、最も基本的な基準があまりにも低いレベルであり、市町村ごとの格差も大きく、バラバ

ラな施策であることが問題の根底にあります。放課後・土曜日・長期休みの保育時間が年間2000時間を超える学童保育は、小学生の子どもたちにとって、「生活の場」であり、受け止められ大切にされ豊かな発達を保障される場でなくてはなりません。

しかし、コロナ禍で浮かび上がった上記課題は、具体的な政策には反映されず、「保育」とは別物の「受け皿」だけを増やそうとする施策が打ち出されている現状です。また、多くの自治体で、学童保育は指定管理制度による運営がされていますが、営利企業が指定管理先として選定されるケースが増え、カリキュラムで子どもの時間を埋めていくという手法が目立ちます。数年で指定管理先が変わる可能性もあるため、職員の身分も不安定です。

学童保育の法的な位置づけの曖昧さが根本的な原因、と考えた私たちは、児童福祉法に明確な位置づけをさせることを大きな運動にしていくと同時に、「保育」の中身と言葉の意味＝「保護し、愛護し、教育する」を改めて明確にしていく必要があると思っています。

4. みんなで知恵を出し合って「共に育つ」ことを大切に、豊かな幼児期を

この分科会では、幼保小の連携を大事に考え、さらに先の青年期までを見据えた子どもの育ちを考えることも提起されてきました。幼児期は人としての土台を作る大切な時期です。保護者、保育士、教職員、指導員など子どもたちに一番近い場所にいる大人がどのようにつながり合っていけばよいのか、それぞれの立場から現状を報告し、実践を交流し、学び合いましょう。

第17分科会 幼年期・低学年の教育と保育問題

「いっしょうけんめい1ねんせい！」

松塩筑支部
松本市立波田小学校
市ノ瀬 有香

1. 出会い

4月に元気いっぱい入学をした1年生。私が受け持つクラスには33人。他のクラスよりも若干人数は少ないですが、初めての1年生ということもあり私にとってはとても多く感じました。

入学式当日、様々な幼稚園・保育園から集まった170人の児童は、入学式で目を輝かせながら「ドキドキドン1年生」を歌っていました。入学式が終わった後、これからの小学校生活に期待をしている様子の子と、我が子を愛しい表情で見つめる保護者の方と教室で対面しました。何か言葉をかける度、子どもたちの反応一つ一つが新鮮で、この先の学校生活が楽しみになりました。

2. 学校に慣れるのは難しい！

入学してからしばらくは、緊張している様子の子が多い1年生。もちろん初日から元気いっぱいの子もいますが、まだ自分のペースをつかめていない子も多かったように思います。はじめは「ここには行かないよ」と制限される場所が多かったこともあり、ウズウズとしていた1年生でした。

はじめは順調に教室まで登校していた子どもたちでしたが、しばらくするとなかなか教室に来られなくなってしまう子がでてきました。教室の前まで来たはいいものの、そこからお父さんと離れられなくなってしまう子。泣き叫んでしまい車から出てこられない子。下駄箱から動けなくなってしまう子など、様々でした。そんな様子を見た周りの子たちは、心配しつつも無理に声をかけるのではなく、絶妙な距離を保っていてくれました。なかなか学校に心が向かない子たちにとって、そのような周りの子たちの反応はありがたかったのではないかと思います。

2学期に入ってから、登校が比較的スムーズに進むようになりました。懇談会でも「前よりも学校に対して前向きな言葉が増えてきた」というような言葉をいただき、子どもたちにとって学校が安心できる場所になってきたことを感じました。

3. 遊びを通してつながる子どもたち

活発にたくさんの遊びをする1年生。朝は準備が終わった人から前庭に飛び出します。おにごっこをしたり、縄跳びをしたり、あさがおの世話をしたりと、遊びの内容は様々です。おにごっこでは「仲間に入れてー!」と、クラスの垣根をこえて遊びを繰り広げる様子が見られます。はじめのうちは同じ園から来た子がおらず「お友だちがいない…」と悩んでいた子ども、おにごっこを通じて新たな友だちができ、表情も明るくなりました。また、休み時間には6年生のお兄さんお姉さんも1年生の教室に遊びに来てくれます。頼りになる6年生のおかげで、1年生はスムーズに学校に慣れることができました。

ある日、生活の授業で砂遊びをしに行ったときのこと。山を作ったり、トンネルをほったり、穴をほったりとここでも全力、一生懸命です。ここで特に気になる姿がありました。Tくんは、休み時間にはひとりで遊ぶことが多かった児童です。しかし、砂遊びのときには何人かと協力をして夢中になって穴をほっていました。Tくんから「いっぱいほれたね!」「がんばれ〜!」と、仲間に向けた声かけが多くみられ、友だちと関わるよい機会になったと思います。

休み時間の様子や砂遊びの様子を見て、改めて「遊び」の時間は大切だと感じました。小学校に入学してから学習の時間が多くなり、人間関係を構築するのが保育園に比べて難しくなっているのではないかと思います。本来であれば学習の時間にも多くの人と関わる時間を設けられればいいのですが、なかなかうまくいきません。遊びの時間を意図的に企画し、友との関わりを大切にするクラスにしていきたいと思いました。

4. みんな大好き字の学習

私の専攻が書写ということもあり、文字を書くという授業には力を入れています。入学してすぐにひらがなの学習が始まりました。一字一字丁寧に学んでいく子どもたち。何回か書いたあと、自分が書いた字の中で最もお気に入りのものを決めます。それにより、他の人と字を比べるのではなく、「自分の字」を好きになることができます。また、ひらがなを学ぶ際には書くときのコツを全員で考えています。それによって、字を見る目が養われ、良し悪しを自分で判断できるようになります。はじめはふにゃふにゃな字を書いていた子ども、徐々に手指の巧緻性が高まっていき、安定した字を書くことができるようになりました。

書写の学習では、クラスの代表になることを目指し、全員が意欲的に取り組みました。1枚書いたら終わりではなく、自分の書いた字を見直します。自分で自分の書いた字を朱で直したり、よいと思う字には花丸をつけたりと、書写の用紙はあっという間に真っ赤になります。自分の字が好きな子どもたちは、自信をもってよいと思う字に花丸をつけることができます。また、自分はまだできると感じているので、しっかりと修正をすることができます。自己調整は1年生でも可能なのだと、感心するできごとでした。

書写の学習を進めていく中で印象的だったこと。特別支援学級に通う H くんは、自分に自信がないことが多いようで、よく「できない」「わからない」と口にする人が多い児童です。しかし、ある日の朝です。書写の授業があることを知った H くんは、近くの席の K くんに向かって「今日の書写がんばろうね！」と声をかけていました。その時点で感動！だったのですが、いざ書写の授業が始まると、実際に一生懸命自分の字と向き合う姿がありました。「ここ間違えちゃった」「この字はうまく書けた」と一喜一憂する姿を見て、全力で楽しんで向き合うことができる授業が一つでもあることに嬉しくなりました。これからも書写の授業をがんばりたいな、と思った瞬間でした。

5. トラブルもありますが…

クラスの子たちはやさしく思いやりのある子ばかりですが、33人もいれば、合わずにトラブルになってしまうこともあります。自分も話したいと怒る子、強く注意をしてしまう子、ふざけて「バカ」と言ってしまう子。様々な子がいます。悲しかった、いやだったと報告がある度に、該当児童の話聞きます。どうしてそのような行動に出してしまったのか、どうすればよかったのかと、一緒に解決方法を考えていきます。反省し、素直に謝ることができる1年生の姿を見ていると、とても素敵だと感じます。

今後の目標は、教師を介さずに自分たちの力で解決をしていくことです。いやなことがあったときは「いやだよ」と伝えられること、言われた子はその言葉を受け止めて素直に反省をすること。お互いを思いやる気持ちを持ち、生活をしていけることが集団生活において重要なことだと思います。お互いのことを考え、一緒に成長できる環境を考えられる学級づくりを目指したいと奮闘する日々です。

「子ども時代をどう保障する?～「あそびタイム」等のとくみ～」

上田市 教員 高木美幸

1 学級の子どもの様子と低学年に大切にしたいと考えていること

(1) コロナ禍で幼保時代、1年生時代を過ごしてきた子どもたち

- ・なかなかマスクを外せない子どもたち
 - ・生活科の校外学習で「はないちもんめ」を知らない子どもたち
 - ・「おちゃらか」など、友だちとの手遊びを知らない子どもたち
 - ・音楽会で他学年の演奏を聞いたことのなかった子どもたち
- でも…

- ・給食はやっぱりおしゃべりしながら食べたい子どもたち
- ・2学期始業式の朝は「ハグ」しちゃう子どもたち

(2) 様々な困難を抱える子どもたち…口頭で

(3) 2023 長野県民間教育研究集会において

講演「子どもの尊さと子ども期の保障～子どもへの『まなざし』を問う～」

早稲田大学名誉教授・日本子どもを守る会会長 増山均氏

○子ども期保障のための6つの基本的権利

「生存権」「生活権」「学習権」「文化権」「厚生権」「自治・社会参加権」

- ・この中で「文化権」である「遊育」を大切に

↓

子どもの権利条約の第31条に規定されている、休息と余暇が保障され、楽しく遊び、想像力を羽ばたかせていく権利。すなわち、休息・余暇（気晴らし）権、遊び権、文化権保障の課題。

- ・ゆっくり遊んでOK、失敗OK、子どもたちで決めてOK…ゆとりから「創造力」が醸し出される。

○「あそび」と「遊び」

あそび…子ども自身が考える

遊び…プログラム化したもの

※名前の無い「あそび時間」が必要

(4) 子どもたちへの願いと とりくみの重点（低学年で大切にしたいもの）

- ・豊かな経験をさせたい…あそび、歌、自然とのふれあい（春さがし、よもぎだんご、畑・味噌づくり）、人間とのふれあい（友だち、地域の人々）
- ・自分の考えを表現できるように…日記を書く、読み合う
- ・支え合える仲間として成長するように…いろいろな状況の仲間を理解し、一緒に歩いていかれる関係に

2 「あそびタイム」のとくみ

- ・本校では、月曜の朝をワクワク迎えられるように朝の時間は「神川っ子（クラスで遊ぶ時間）」が設定されている。しかし、それは「プログラム化された『遊び』の時間」

↓

- ・「神川っ子」に続く1時間目を「国語」または「生活」に。前半を自由な「あそび時間」、後半をあそびを中心にして日記を書く時間にした。



- ・行事などの関係で、まだ5回ほどしかできていないが、子どもたちには大好評。日記は「あそびタイム」のことも OK、土日のことも OK とすることで書きたいことを書ける時間になっている。月曜日の1時間目を「あそびタイム」にすることで、授業の遅れなども心配だったが、休日からの切り替えが難しい月曜の1時間目なので、むしろ「あそび」によってウォーミングアップにもなっている。作文を書く時間がなかなかとれずに来たので、一石二鳥。
- ・学級通信「たからばこ」参照 (P5. 6)
 - A さん…一人で文がなかなか書けない男の子
 - B さん…次の章「ほうかごべんきょう」で登場する れなさん
 - C さん…ワクワクする「名前の無いあそび」
 - D さん、F さん…粘土も自由に作りたい物をゆっくり作りたい
 - E さん…遊び場の隣の畑で一人で朝顔観察。植物が大好きな E さん。

3 一人一人とつながり、基礎学力をつけるといくみ

「先生！べんきょうっていがいとたのしいね！」…しょうさん・れなさん(仮)との「ほうかごべんきょう」
(2023 数学教育協議会全国大会 in 長野 低学年分科会レポートより)

(1) 遅刻、爆睡、暴言…教室から出ていってしまうしょうさん

しょうさんは目のくりくりした男の子。年子のお兄ちゃんがいて、家庭環境はちょっと複雑。

1年生のころから遅刻気味。読書が好きで知識が豊富だけど、授業にはなかなか参加しようとしませんでした。普段は優しいのですが、気に入らないことがあったり、面倒なことをやらされると目つきが変わってしまう…。それでも、支援の先生がついてくれたのでなんとか教室で授業に取り組めていました。

そして2年生になり、支援の先生が教室からいなくなり(1年生の支援)、担任も変わり、家庭の状況もいろいろと変化があり、徐々に不安定さが増してきました。

夜遅くまで動画を見ているので、遅刻は相変わらず多く、登校しても机に突っ伏して「爆睡」。忘れ物も多く授業に集中できない。登下校中に「いらないから」「邪魔だから」と通学用ヘルメットや傘を捨ててきてしまい友だちが拾ってきてくれる、宿題のプリントはいらないと破いてしまう、弱ったカエルを踏み潰してしまう、などの行動が現れてきました。

「厳しくしつけるべき」という両親の思いの中、余計にストレスがたまっていったしょうさんですが支援会議を経て、「授業中教室になるべくいられるように授業中も彼の好きな読書を認めること」「イライラしてきたら担任に報告してから教室を出て、保健室や校長室で読書をする」という今後の方向性を出しました。そして、唯一の彼の学習の場として確保できたのが「ほうかごべんきょう」でした。

(2) 「先生！きょうは『ほうかごべんきょう』できる？」

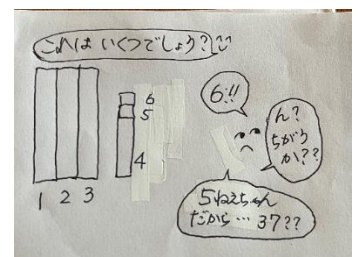
ある日、1つ上のお兄ちゃんと一緒に帰らなければならなくなったしょうさんは、6時間目の授業を終えて下校になるお兄ちゃんを教室で待つことになりました。

ちょうど、クラスではタイルの「ターくん」を使って「たし算ひき算」の単元を学習したところだったので、しょうさんにも「ターくん」を紹介しました。

キャラクターが設定されていること、自分で操作できること、が気に入ったと見えて、黒板にターくんを貼り付けながらの学習に、はまってくれました。

まずは、タイルの読み方。「37」を表したタイルを「6」と読んだしょうさん。5のタイルも「1」と捉えたのです。

しかし、自分で「？」と気づいて、すぐ正しい読み方ができるようになりました。



担任がタイルを「ターくんハウス」に置き、しょうさんがそれを読む。担任が数を読み上げ、しょうさんがタイルを「ターくんハウス」に置く…そんな学習が続きました。

「三百六十七」を数字で表すにも「3607」と表していたしょうさんですが「ターくんハウス」にタイルを置くことで「367」と理解してくれました。

ちょうど「ほうかごべんきょう」をやっている教室には、お姉ちゃんの帰りを待つ、れなさんも残っていました。れなさんも、算数は苦手。しかも、なかなかおしゃべりしてくれない、しゃべっても聞き取れないくらいの小さな声の女の子。

いつもは、友だち相手に「殺すぞ」とすごんでいるしょうさんが、れなさんに「いっしょにやる?」「先にやっていいよ」などと声をかけます。最近友だちと遊ぶこともなくなっていた中で、れなさんとの関わりが嬉しかったのでしょう。担任が変わって1ヶ月、まだ様子を見ているかのように表情が乏しかったれなさんも、嬉しそうに「ほうかごべんきょう」に加わってきました。

30分ほどの「ほうかごべんきょう」でしたが、週に1、2回、しょうさんにとって楽しい時間になったらしく「今日は『ほうかごべんきょう』できる?」と聞いてきました。この「ほうかごべんきょう」を足がかりとして担任との人間関係を作り、彼の心が落ち着いて学習できる時間とすることで、彼の行動にじわじわと効き目が表れてくるのを待とうという地道な作戦でもありました。

(3)「先生、べんきょうって、いがいとたのしいね!」

何回かの「ほうかごべんきょう」のあと、しょうさんが言った言葉です。そして6月の終わりごろ、ターくんを使わない勉強を少しやったとき、しょうさんが「いつもの(ターくん)やろうよ」と言いました。まだまだターくんが必要なんだなあと感じくとともに、「ターくんならわかる」という彼の自信を感じました。

そして「実はぼく、みんなとの差を縮めたいと思っているんだよね」ともつぶやきました。まだまだ情緒的に不安定で、気に入らないことがあると、担任やいつも優しく支えてくれる養護教諭にも「くそばばあ」などと言ったり、友だちの帽子も踏みつけて破いてしまったりする彼の中に、このところ教室の授業にはほとんど参加していないけど「実はみんなと一緒に勉強をしたい」「2年生の勉強をわかるようになりたい」という素直な思いがあるんだなあ、そして、ターくんとの「ほうかごべんきょう」が彼にとって自信を持てる時間になっているんだなあと改めて思いました。

その日「ほうかごべんきょう」を終えると、「ありがとうございます!」と教室を出ていったしょうさんでした。

(4)「算数、じゅぎょうに出てみようかな」

しょうさんを支える子どもたちは本当に健気です。給食を食べてみんなで「ごちそうさま」をする前に、さっさと食器を片付けようとするしょうさんに、「しょうさん、まだだよ」「がんばれ」と祈るように呼びかける子どもたち。その甲斐無く乱暴に食器をカゴに投げ入れるしょうさんに「あー」とため息こそ漏れても誰も声を荒げません。食べた後の食器を机の上に放り出したまま、どこかへ行ってしまったしょうさん。担任は怒り心頭、連れ戻そうと探しに行きましたが見つかりません。教室に戻るとききれいに片付いています。女の子二人が気づいて片付けてくれたとか。しょうさんに「AちゃんとBちゃんが片付けてくれたんだよ。お礼言おうね」というと、素直にお礼を言っているしょうさん。「北風と太陽」のように、しょうさんの心にあたたかい友だちの思いはちゃんと届いているのです。

そんなことのくり返しの中で、「ほうかごべんきょう」のあと、しょうさんが「算数、じゅぎょうに出てみようかな」とつぶやきました。そのあとの算数の授業、教室の机に座っているしょうさん。1時間ずっと読書ではありましたが。

(5)れなさんのその後

「ターくん」はれなさんにも変化をもたらしました。しょうさんと「ほうかごべんきょう」をする中で、算数に意欲的になっていきました。授業で手を挙げたり(でもかなりの確率で間違えてしまいます。子ども

たちはそんなれなさんの解答に「おし〜い！」と答えます)、計算ドリルの宿題をたくさんやってきて「先生、答え合わせをしたいので答えを貸してください」と言いに来たり、おっちょこちょいの担任が忘れていると「先生、〇〇をやるって言ったのにやってない」と教えにきてくれます。教頭や学年の先生たちからは「れなさん、明るくなったねー」と言ってもらっています。

(5) 今も続く「ほうかごべんきょう」

しょうさんは、「あそびタイム」にも参加したり、少しずつクラスの係の仕事をしたり、おにごっこのある体育や図工の授業にも参加できるようになってきています。れなさんは家庭環境が複雑になる中、担任としては、欠かせない彼女とのつながりの時間になっています。

いそがしい勤務の中で「ほうかごべんきょう」を確保していくのは難しいことですが、彼らに学級事務をちょっと手伝ってもらったりしながら、彼らの学力をつけるため、つながりをもつため、の貴重な時間としてこれからも確保していきたいと考えています。

4 今後について

クラスでがんばったことがあると「ニコちゃんマーク」が貼られ、10個たまるとお祝い会を開きます。先日はみんなで「フルーツバスケット」をしました。途中、しょうさんが「3回鬼になったら退場」という1年生時代からのルールは「必要無い！」と、猛然と抗議しました。プレッシャーに弱い、繊細なしょうさんなのです。それに対して「そのルールがないと、わざと鬼になろうとする人が出てきて楽しくなくなる」とみんなに反対されました。いつもならその時点でキレて椅子など倒しているであろうしょうさんですが、担任が助け船を出して「3回鬼になったら『退場』ではなくて『1回休み』にしたら？」と言うと、「それならいいよ。」と受け入れました。険しい表情になったのはその時だけで、あとはルールに従ってみんなと「フルーツバスケット」ができました。プログラム化された遊びも大切です。

子どもたちは「あそびの中で学び、学びの中であそんでいる」んだなあ、と思います。だから、自由な時間を大切に、思ったことや考えたことを十分表現させ、共有させたいと思っています。

「子ども時代」を保障したいと願う一方で、「やるべきことはきちんとやらせなければ」と宿題を提出させることに躍起になったり、時間で追い立ててしまったりしている自分もいます。今の教育課程の中では「ちようどいい塩梅」を見つけていくしかないのでしょうか。

おうちの方とも子育てについて語り合う時間がなかなかありません。学級通信を週一程度で発行していますが、子育てについて価値観を交流していくにはどうしていったらよいか、これも課題です。

皆さんの実践をお聴きして、参考にさせていただきたいです。

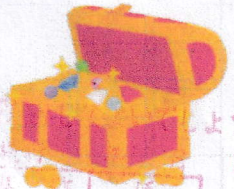
たからばこ

神川小学校2年1組

学級通信

No. 14

9.4



や、と夏休みの日記全部にお返事が書けま^した(子ど^もにち、お待たせしてごめんね。)そして、その内容がとても豊か^いで驚きました。地域のお祭りの様子や、おうちでの花火、川や海で見つけたもの etc. とても詳しく書けていました。子どもたちの心の豊か^ささでもあり、おうちの方のアドバイス等のおかげでもあるのでは、と改めて感謝しています。工作も本日持ち帰りました。一人でやり遂げ^て子^ども、おうちの方と一緒に取り組ん^だ子^ども、貴重な体験になったことと思います。ご協力、ありがとうございました。(引き渡し訓練にもご協力ありがとうございました。おかげ様でたいへんスムーズにできました!!)

子どもの世界

夏休み中に出かけた研修で心に残ったのが「子ども時代を大切に」「名前のない自由な遊びを大切に」という言葉でした。早速先週の神川「子タイム」は自由遊びの時間に...その後で書いた日記からご紹介します。

「かんりランドであそんだ」

今日、しょうま^んとマイク^らごう^ごことしました。ほくか^てまごです。しょうま^んはたおす^せまごです。とてもたのしかったです。

A

「はっばさひろったよ」

校^ていではっばさひろって、おまわり^りようのきん^いなはっばさをあつ^めました。そして、かえって、おまわり^りさつ^ります。たのしみです。どんなおも^もり^にてき^まぬドキドキします。はやくつ^りたいです。

C

今日、かんりランドであそびました。ブランコであそんでたら、ほかの友だちがブランコであそびたくてま^つてたらゆい^いならんが^かしてあげてたのを見ました。やさしいな^あと思^いました。

B

たった20分の遊びの中で笑顔あり、発見あり、仲良しあり...宝物がいっぱいあります。

ねん土の世界

あそびタイムの

ねん土の

「今日ねん土したよ」

D

今日はねん土でさめさつくったよ。
それであそびとあそびとねん土で
海の生ぶつをつくりました。楽しかったです。
またやりたいです。

授業と違って自由に作る「あそびタイム」
は子どもたちも一層生き生き。Dさんの
さめもカッゴよかったです。

今日朝顔の色がきれいです。

E

朝顔がきれいな色になってきれい。
たねがいない。

草花に興味関心がある

Eさん。きれいな花にすき
ます。この日のあそびタイムも畑で生
き発見です!



Ⅳ Eが大好きな Fさん。
たくさんの工夫が。一つの作品に
発想が豊かですね!

「ねん土でロボット」

Mitsuru

F

後ろのサ中にはジェットパック
がついていて、ちゅうもさそ
るよ。うちゅうせんにも人
けいするよ。手にはしゅう
がついているよ。けんもつ
ているよ。

「プールへ行きました」

G

木曜日にママが「あしたはな
田のプールへ行こう」と言
ました。
そしてわたしは、楽しみで
夜ねらんませんでした。
そして金曜日の朝に、そ
わたしはこう思いました。
「早くはうか後にちやうどい
なぬい。
そして家に帰して、んびを
してプールへ行って楽し
かったです。

夜、寝らんないほどの
さのワクワクした気もち。当日
の、プールでの楽しさと「こ
らい」大きな心の動きを
わね。